

# 新年のごあいさつ



対馬市長 比田勝 尚喜

新年明けましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、ご家族お揃いで、清々しい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃より市政に対しまして深いご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、北朝鮮による弾道ミサイルの発射が幾度となく繰り返され、11月末には日本のEEZ内に着弾するなど、この暴挙は、我が国のみならず、国際社会の平和と安全を揺るがすものであり、国境の島に暮らす私たちにとりましては、有事における大量難民などを想定いたしますと、気の休まる時はございませんでした。

そのような中、国境離島に暮らす私たちにとって、うれしいニュースがありました。それは、悲願でありました有人国境離島法の施行であります。国境離島に住民が住み続けるために必要な地域社会の維持を目的とするこの法律には、航路・航空路運賃の低廉化をはじめ、地域資源を活かした雇用創出に対する支援などが盛り込まれており、既に多くの方がその恩恵を実感されていると思います。今後は、交流人口及び島内消費の拡大に繋げるため、対馬出身者をはじめとする島民以外の方々への支援拡充に取り組んで参ります。

また、1607年から1811年の間に12回来日した、平和な時代を象徴する朝鮮通信使に関する歴史資料が、日韓民間団体による共同申請において、ユネスコ記憶遺産に登録されたこと、さらに、663年の白村江の戦い後、国防の要衝として築かれ、今もなお威容を留める国指定特別史跡の金田城が築造1350年を迎えたことなど、歴史上重要な役割を担ってきた対馬を代表する歴史資産が、日本のみならず世界に発信された記念すべき一年でもありました。

その他にも、企業誘致による大手ホテルチェーングループ(株)東横インの「東横イン対馬厳原」や、地元企業である(株)ティースリーの「対馬いづはらペンション」、福岡の(株)理研ハウスが手がけた「テマドホテル比田勝」のオープンにより、

吃緊の課題であった「宿泊施設不足の解消」と「新規雇用の創出」に大きく貢献していただいたところでは、また、平成22年度から約43億円の事業費をかけた一般国道382号「大地バイパス」の開通は、北部地域の通勤・通学や観光客の利便性の向上、地域経済の発展に大きな役割を果たすものであります。さらには、比田勝から博多までの国際航路への国内客の混乗におきましても、昨年5月に九州郵船(株)、JR九州高速船(株)、そして対馬市の3者間において「国際航路に国内旅客を混乗させ運航するための実現に向けた取組に関する協定」を締結し、関係機関の理解も得ながら、実現に向け、具体的な協議を進めているところであります。

公約としております、ふるさと納税の返礼品につきましても、一昨年11月から取組んで参りましたが、インターネットによる情報発信の拡充、旧対馬藩の飛び地であった縁から佐賀県基山町との「ふるさと応援寄付金に関する連携協定」による相互協力関係の構築、また、対馬市ゆかりの皆様からのご紹介などにより、寄付額も増加しており、併せて、本市のPRにも大いに繋がっております。

市長に就任させていただき、2度目の新年を迎え、任期も折り返し地点に差し掛かります。昨年からは吹き始めた有人国境離島法という追い風に乗れ、また、気持ちも新たに、市民の安心・安全と地域活力の再生のため、柔軟かつ大胆な施策も展開して参ります。

引き続き、初心を忘れることなく、市民協働の市政運営に邁進して参りますので、今まで同様に格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆様方にとりまして、活力に溢れ、笑顔が輝く素晴らしい年になりますよう心から祈念申し上げまして、新年のごあいさついたします。

# 新年のごあいさつ



対馬市議会議長 小川 廣康

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、ご健勝で希望に満ちた新春をご家族おそろいでお迎えのことと心からお喜び申し上げます。平成30年の年頭にあたり市議会を代表いたしまして、ここに謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

市民の皆様には、日ごろから市議会に対しまして、深いご理解と温かいご支援を賜り、心からお礼申し上げます。

私たち、対馬市議会におきましては、昨年5月の一般選挙において、市民皆様の絶大なご支持を受け、新たに19人で、6月から活動を始めたところであります。6月の初議会において、正副議長の選出、3常任委員会、議会運営委員会などの構成を決定し、これまで定例会3回、臨時会1回の開催と、提案された議案について慎重に審査を進め、市長部局と一体となって、対馬市の活性化のための議論を続けてまいりました。また、3常任委員会においても各地域の実情を細かく理解すべく、自ら足を運んで所管事務調査を精力的に実施し、それぞれの専任重要課題に積極的に取り組んでいるところであります。

さて、2017年の世相を表す「今年の漢字」は「北」でありました。北朝鮮による、度重なる弾道ミサイルの発射や核実験の強行などその動向に脅威と不安感を感じた年だったと思われま

す。特に、隣接する朝鮮半島での出来事であり、身近なものと感じられ、朝鮮半島有事の際における対馬市の市民保護、防衛体制について、対馬市議会において論議されたことは、対馬市議会史にかつてないものであり、国境の島対馬を強く再認識したところであります。

また、対馬市の一年を振り返ってみますと、悲願でありました有人国境離島法が昨年4月から施行され、対馬市民の航路・航空路運賃の低廉化、生活や事業活動に必要な物資運送費用の負担軽減や雇用機会の拡充等の事業が盛り込まれたものであり、市民の皆様におかれましては、既に新法を

実感されているのではないかと考えております。

しかしながら、新法を活用した対馬独自の更なる施策を展開していかねばと考えております。

有人国境離島法という、現状からの脱却の特効薬をいただき、まさに対馬に追い風が吹いているところでもあります。大きな帆を広げ、しっかり風をつかんで、対馬丸を前進させるべく、船長である比田勝市長とスクラムを組み、知恵と汗を出し合い、対馬市の将来像であります「自立と循環の宝の島 対馬」の実現のため、新たな施策を推進する、実行力のある議会を構築しなければならないと考えております。

議会におきましては、市民皆様の負託に応えることを目指し、議会の改革を行っております。市民との情報共有、市民参画、協働の下、議会と議員がそれぞれの役割を果たし、市民の負託に全力で応えていくことを市民に対して宣言するため、議会の最高規範として議会基本条例を制定し、昨年4月から施行しております。また、議会基本条例を実効性のあるものとするため、議会運営委員会において、実施方法等の協議を重ねているところであります。

これにより、議会活動を市民皆様により近いものとし、市民皆様の目線にたった議会活動を行っていく所存であります。

市民皆様のご意見を伺いながら、より市民に開かれた透明性の高い議会を目指し、議決機関としての議会の責務を着実に果たしてまいりたいと考えております。

私ども議会といたしましても、「このまちに住んでよかった。」と実感できる、より豊かな住みよいふるさとづくりを目指し、今後さらなる創意工夫を重ね、市民皆様のご期待に応えるよう決意を新たにしております。どうか本年も相変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

終わりに皆様のご健勝とご繁栄を心からお祈りいたしまして、年頭のごあいさつといたします。